

## 2016年度後期授業評価のまとめ

教務学生委員会

今年度後期の授業アンケート調査の結果を要約し、今後の課題について確認する。後期に授業を実施したほとんどの基幹教員から回答が得られており、参加率は非常に高い。概要を以下に記す。

(0.0)	授業 登録者数	回答数	回答率 (%)	設問 III-1-1 授業満足度					設問 III-1-3 授業目的達成度				
				1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
DID	103(10)	81	71.7	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (2.5)	33 (40.7)	46 (56.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (6.2)	33 (40.7)	43 (53.1)
DICOS	90(20)	70	63.6	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (4.2)	36 (51.4)	32 (45.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (7.1)	33 (47.1)	34 (48.5)
DICOM	99(17)	101	87.1	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (3.0)	31 (30.7)	67 (66.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (3.0)	35 (34.6)	63 (62.4)
合計	292(47)	252	74.3	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (3.2)	100 (39.7)	145 (57.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	13 (5.2)	104 (41.3)	140 (55.6)

※授業登録者数欄の( )内の数字は研究生等聴講生（非登録受講者）の数。

※回答率は全受講者（登録、非登録を含む）の内、評価票を提出した者の比率。

※設問 III-1-1 および III-1-3 の 1～5 は、5 が満足度・達成度ともに最も高く、1 が最も低い。分布の ( ) 内の数字は回答者中の比率。

.....

(評価概要)

引き続き各講義で高い「満足度」と「目的達成度」を維持出来ている。

(授業評価の実施方法について)

講義の時間枠内で授業評価アンケートを記入させないと、やはり回収率は下がることとなる。DID を例にとると、回収率が前回の 93.8% から 71.7% に低下したのは 3 講義でこの理由で回収率が低かった為であった。講義時間を無駄にせずに回収率を上げる方策を教員間で共有する必要があるようだ。